３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.446-447

通常総会終わりました、１６期目の新体制

退任のご挨拶

「森林の保全・再生」の任意活動4年、NPO法人活動第３期目の「第16期目通常総会」で代表理事を退任した事をご報告すると同時に、当会活動を支援して下さった団体、及び直接・間接に活動に参加して下さった全ての皆様に深く感謝申し上げます。「自然（森林破壊）と言う負の遺産を子孫に残してはならない」という活動理念で活動してまいりました。今後はこの20年間の蓄積をお役に立てる様、体力の限り当会活動を支えて行く所存であります。簡単ではありますが全ての皆様への感謝の想いをお伝え申し上げます。ありがとうございました。新理事長には副理事長だった川田が就任します。これからも変わらぬご支援よろしくお願いいたします。

石村　黄仁（本会、顧問）

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

【定例活動報告】小原本陣の森

完成間近

いよいよ屋根板へと作業が進み、間伐材を乾燥させる小屋が完成します

今月の小原の活動では進みが遅れている嵐山の雨避け屋根工事を行いました。野地板(幅18.5cm x 長さ1818mm x 厚14mm)を約３０枚を取り付けました。作業して判ったことは[1]垂木の取り付けピッチは46cmのこと（45cmは不可）。野地板長さ(1818mm⇔6尺)の4分の１に合わせないと、野地板の繋目が垂木から外れる。（野地板を張る部分の垂木のみを数本やり直しました）[2]野地板の取り付けは釘が早い。(ネジ、ドリル作業は遅い)[3]垂木の太さ30mmは、野地板の継目部分の取り付けに適した太さになっている。7月16日(日)嵐山定例では、まず未修整の垂木(約10本）のやり直しが必要です。その際、作業には脚立2台が何とか使える。一人で40枚/日として、16日は80枚の取り付けが可能。（野地板取り付けは続く）（屋根全部では野地板が数十枚不足：不足枚数は未確定）破風板や軒部の屋根端部の処理は、次回に現場で相談したいと思います。　　川田　浩（本会、理事長）

【定例活動報告】知足の森

知足の森では広葉樹林の除伐を続けています。今回は望星高校OBOGも参加してくれての１６人。三鷹二中からも新１年生が参加。先輩から斜面での身のこなし、安全確保の方法、ノコギリの使い方、切った枝をどう処理していくか、声かけの仕方などを教わり挑戦。最初は斜面にしがみつくようだった中学生もすぐに慣れてきて、これは切っていいですか、と積極的に声をかけられるようになっていました。一方、高校生以上の手練れのメンバーはどんどん作業を進めていき、道路脇からも森が明るくなってきたのがわかるほど。沢のすぐ上の斜面の作業を続けていますが、沢沿いの道路より森が長福寺所有林になる、と認識していたのですが、通りかかった地元の方から道路ギリギリは市有林の可能性があるというアドバイス。作業後に公図で確認する限りでは道路まで所有しているように見えますが、今後確認作業をしたいと思います。この斜面での作業はなかなかに負荷が大きい仕事ですので、７月からの暑い季節はいったい終了し、９月以降涼しくなったら再開したいと思います。その間、小原側の尾根にさらなる所有林をお持ちだと判明しましたので、そちらの調査もしていきたいと思います。　　宮村　連理（本会、副代表理事）

【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

まずは木工斑活動報告から。間伐材置場のこれまでの作業進捗状況 からです。2 月 19 日 桁 1 本を上架、 3 月 19 日 工房側桁を上架、 4 月 16 日 中央桁を上架、と少しづつ、骨組みが立ち上がってきた。4 月 30 日(臨時) ＜棟上げ＞ 手配していた垂木・野地板・防水シートが入荷した。 大工の土屋さんの指導で棟木を上架した。 「棟上げ」と喜んだが、土屋さんからは 「この程度では、棟上げ とは言わない」との厳しいコメントを頂いた。 プロとアマの差は非常に大きい。 5 月 21 日＜垂木加工＞　垂木端部を棟木上の付合せ角度に合わせて加工し、屋根工事の準備を行った。6月 18 日＜垂木取付け＞　垂木を等ピッチに取付けた。　屋根の端部の破風

板の取付や軒の処理は、これから詳細検討を行うことにした。 7 月 02 日(臨時) ＜野地板の取付を開始＞ 野地板を約 30 枚を取付けた(釘 450 本)。 仕上げまでは、まだ数回掛かりそうである。（報告：川田浩）

お花畑班の参加者は薄井さん、岡田さん、石原さん、丸茂、天気快晴、午前10時作業開始。緑のダム北相模の理事として、長期に渡り嵐山の定例活動他を多面的にサポートしていただいた内野郁夫さんが６月１１日(日)早朝にご逝去されました。参加者一同で黙とうを捧げ、ご冥福をお祈りしました。午前中は3班に分かれ、石原さんは、バラ園周りの生垣を完成させるためシュロ縄での男結びを、臼井さん、岡田さんはレッドロビン、ウバメガシ、沈丁花等の剪定を、丸茂は前回同様に仮払い機で残り半分の雑草取りを行った。楽しみにしていたモッコウバラは見事に咲いたであろう開花の跡しか見られず、前年度同様に開花を楽しむことはできなかった。モッコウバラはツルがかなり伸びていたが、モッコウバラの特性としては、あまり触られることを好まないので伐らないで自由に育てようと思う。バラ園の野ばら、山椒バラなどは一、二輪美しい花をつけていた。嬉しかったのはトネリコの木が枯れてダメかと思っていたら、下の方にちっちゃな新芽が出ていて何とかなるかもしれないと思った。午後からは、残った雑草取りを仕上げようと張り切っていた矢先、１台しかない仮払い機が故障して使えなくなり、仕方なく石原さんに手伝ってもらい大鎌で雑草取りりをしたが、老化には勝てずやはり仮払い機に頼らざるを得ないことを痛感した。（報告：丸茂喬）

森林整備班は午後から雨になるとの天気予報である。沖縄九州南部地域は梅雨宣言が出たところだ。また、相模湖でツキノワグマが泳いでいてボートで釣りをする釣り客を驚かせたとのニュースもあり、嵐山も危険地域にならないことを祈るばかりである。今日は16時から相模湖交流センターで第16期会員通常総会を予定している。朝礼の冒頭で川田氏より、先日逝去された内野さん（きのこさん）のご冥福を祈って１分間の黙祷を全員で行った。今日は、フォレスト・ノバの学生が相模原市環境祭りに参加する関係で、急きょ朝の体操を行う羽目になったが、ラジオ体操しか知らないので結構難しいものだ、次回もし体操のおじさんをすることになっても恥を掻かぬよう練習をしておきたいと思った。

新緑の嵐山

４０名超が参加。今年から参加の中学生で、森が新しいにぎわいを見せています。活躍に期待しています。

水源の森に向かう林道脇からバップアゾーンまでの雑草が茂ってきたので草刈を行うことにして、川田、桜井、小林の3名で出かけた。今日は先生も付いていることから、樹木の名前を調査しながら嵐山に生息する植物図鑑を作りたいと言うことを話しながら、勉強も踏まえた有意義な草刈体験ができた。それぞれの植物に物語があり、それを知れば知るほど伐採が進まなくなってしまうのは如何なものか？嵐山へ向かう東海道自然歩道まで、目立つものは退治したが、水源の

水は枯れているが雑草は大きく道を塞いでいた。獣道は新鮮な足跡が深く刻まれており、何かが生息していることを物語っていた。緑のダムは若い人が多いですね！と羨ましがられることが多い。本日も学芸大附属中学から12名の学生が新たに参加されていた。この様に、将来を嘱望され、これから教育に携わるであろう子供たちが、しっかり里山や林業体験を実際行うことは他にあまり例を見ない貴重な事例だと思う。立木の伐倒も大分慣れてきたと関心している。ホイッスルなどで危険を知らせる作業を定番にしたいと感じた。（報告：小林照夫）

地球環境部は今月も間伐は電話線周りの比較的無難に切れそうなものから。しかし、そろそろ本格的にチルホールで誘導しながら切らねばならない木ばかりが残ってきました。さて、今月は初めて、東京学芸大学附属小金井中学校の生徒が参加しました。同校ではこれまでの地球環境「部」としてではなく、総合的な学習の時間の講座の一つ、「実際に取り組む環境問題」というテーマで森林整備、森林調査をするメンバーです。とはいえ、まずは基本の基本になる間伐作業を体験。高井戸中、三鷹二中の生徒も入れて総勢２２名。３チームに分かれての作業。結果はウェブページのGISのページでご覧いただけますが、６本を無事に間伐。うち２本は掛かりましたが、１本は木廻しベルトが見事に当たり滑車で向きを変えたロープで引くとくるっと回して外れるという感動の１本。もう１本は先が少し掛かっただけだったので、楽勝と思いきや引きすぎて逆側の木の頭にかかるという、まるで忍者のように木が木から木へと。みんなで大爆笑。その後、慎重に先だけ外し、こちらもきちっと枝を払い、玉切りをしました。力任せに引かず、緩急つけての掛かり木処理。今日もたくさんのことを学ばせていただきました。初参加者の感想は次ページ「若者の森づくり」でご紹介します。　（報告：宮村連理）

編集はForest Nova☆の五味が担当しました。気温が高くなってきましたが、体調を崩されないように気を付けてください。　五味　輝史（Forest Nova、副代表）

【初参加者の感想から】

先日5月21日に、大学院生を引率して、緑のダム北相模の定例活動に参加しました。環境教育を専攻する大学院生に自然保全や自然教育活動の現場を体験させたいとの意図から、今回の定例活動に参加し、地球環境部の活動に合流し中学生や高校生などを中心にした若者と一緒に間伐作業を体験しました。そもそもなぜ間伐するかといった意味を知ることは大切ですので、宮村さんからそのことを説明していただき、その後、実地で木をどの方向にどのような方法で伐倒するかを、教えていただき、地球環境部の方々と作業を進めました。地球環境部の若者たちはすでに経験を積んでいるようで、宮村さんや地球環境部卒業生の指示のもと、手際よく行動していましたし、私たち大学の若者も伐採の成功体験を味わうことができました。近くに電話線があったのでひやひやでしたが、上手く伐倒でき一安心。

この会には年齢が高い人から若い人まで多様な人が集っているのが特徴のように思えます。多様な方が集まると活動も多様です。朝および夕方の終了の挨拶でも、森林整備の活動、木材利活用の木工の活動、野菜や草花の活動、大学生による森林保全活動、自然調査の活動、それに地球環境部の活動などが報告され、その多様さにも驚かされます。それに何よりも、楽しかったということが一番でした。やはり自然の中の活動は人に清々しさを与えてくれるようです。大学院生もそうした多様な人と活動に触発され、楽しい活動だったようです。参加した学生の簡単な感想を紹介します。

SE君：私は以前所属していた学校で森林管理に関する施業は行ったことがありましたが、手作業での伐倒は初めてでした。同じ作業を行った中学生達の表情から、主体性ある環境活動の在り方について再考しました。皆さんの活動に参加でき光栄です。SK君：多様な主体が関わる森林保全活動に初めて参加し、間伐の手法や生徒が積極的に活動する姿を学ばせていただきました。この先環境教育に取り組むうえで参考にさせていただきます。また参加する機会があればよろしくお願いします。KO君：間伐を実際に体験するのは初めての経験であった。どのような点に注意して、倒木するかなどは言葉で聞いたことはあったが、実践することによって自然を扱うことの難しさを肌で感じることができる貴重な体験であった。（K. O.）

これからもよろしくお願いします。

樋口　利彦（東京学芸大学）

【若者の森づくり】地球環境部

課題研究の一環として環境問題について考える、で活動することになった。森が好きという理由もあったが、最初は木を切るだけ、そう思っていた。しかし木を切る手順など基本的な説明を受け、森に行った。木を切るだけなんだろう、そう思っていたがそこから学ぶことは多かった。木の選び方、ロープのつなげ方、ひっかかってしまったときの対処法、光がしっかり入りこんでいる場所の地面の違いなど、行ったからこそ分かることがあった。森は前から好きだったが今までとは違う意味での興味がわいた。何も考えず行く森と、考えながら何かアクションを起こしに行く森とは「楽しい」の種類が違った。まだ調べるテーマも決まっていないが、今までとは違う「楽しい」を求めて頑張っていきたいと思った。

東京学芸大学附属小金井中学校２年生女子

【若者の森づくり】ForesTo Class

ForesTo Class活動内容は道路沿いの大径木の伐採です。立ったまま枯れていて、台風等で折れてしまっては大変ですので今回伐採することになりました。作業しやすいように斜面に足場を組み、倒しやすいようにはしごで登り高い所にロープをかけてと下準備に苦労しましたが無事に伐ることが出来ました。

伐倒の瞬間には地球環境部のみなさんも駆けつけてくれ、より一層の緊張感の中での作業となりました。伐倒後に年輪を数えてみると、約100年生で、直径は70㎝もありました。私自身、今までで伐った木で最も大きな木でした。歳を重ね、山主さんの永井様が幼少時代にお祖父さんから「我が家で一番立派な木」とお話しを伺っていた等様々な思いが詰まった木を伐る瞬間の緊張感と責任感は言葉では表せられないものがあります。安全に確実に作業を行えるように今後より一層精進して行きたいと思います。

今後は今回伐倒した木の活用方法を考えて行きたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

齊藤　駿一（ForesTo Class）

【若者の森づくり】Forest Nova

今回、私はさがみはら環境まつりでは木工体験が多かったということに加え、環境まつりはスタンプラリーでまわってくる人が多く、簡単にできるものをと考え、手作りのパズルを解いてもらうという企画にしました。パズルの材料の木に私たちが普段活動している嵐山の間伐材を使うことで、自分たちの活動の紹介にもなると思いました。パズル作りは手作業ではまっすぐに板が切れず、ズレが生じてしまうので木工用の電動のこぎりを購入しました。使い勝手がよく、上手く作ることができたので木工製品を作り、販売するという今後の目標にもつながる良い買い物だったと思います。環境まつり当日は、子どもからご年配の方までおよそ146人という大勢の人に来ていただくことができました。今年の開催場所が橋本と、学校のすぐ近くだったせいか、麻布大学やノバのことを知っているという人もいました。今回のイベントを通じて、いまのノバに足りていないのは来てくれた人への対応力や細部への配慮だと感じました。次回からは、企画を考え、物質的な準備をするだけでなく、本番の様子をシミュレーションして、より細かいところの準備を詰めていこうと思いました。服部　七星（Forest Nova）

【事務局より】

第１６期通常総会を行いました

６月第３日曜日、相模湖・嵐山定例活動後に県立相模湖交流センターにて通常総会を行いました。現時点での会員数42名（議決権のない学生会員30名を除く）のうち、出席者16名、委任状出席16名計32名にて総会は成立いたしました。議案１から７まで全て承認いただきました。ありがとうございます。特に重要な活動報告書（収支報告書）は内閣府NPOホームページでも公開されますのでそちらをご覧下さい。また巻頭にもありますように石村代表理事から川田理事長へ交代しました。役員にも入れ替わりがありますが、こちらはホームページにてすでに公開しております。また修正をしました定款もホームページにて公開しています。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人 緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所